

**平成 15 年度海外巡検「長江・三峡ダム 船で行く地学の旅」ご案内（速報）**

本協会では標記巡検「長江・三峡ダム 船で行く地学の旅」を企画しております。

**時 期**：2003 年 8 月上旬の 1 週間。

**見学場所・対象**：中国重慶から宜昌に至る約 600 km の長江沿岸の、地形・地質・地質災害、締切最終段階の三峡巨大ダムの本体工事現場、および歴史遺跡と自然の関わり等。

**費 用**：約 29 万円程度（夏期料金）。

詳細・募集方法につきましては、次号およびホームページでご案内いたします。

**地学クラブのお知らせ**

下記により地学クラブを開催いたします。多数ご参加くださるよう、お待ちいたしております。なお、講演終了後、1 時間ほど講演者を囲み懇談の時間を設けますので、ご自由にご参加ください。

・1 月 20 日（月）14:00 ~ 15:30

「FM 電波観測による地震予報の可能性について」

串田嘉男（八ヶ岳南麓天文台台長）

見越し線以遠の FM 電波の後方散乱を利用した流星観測中に、特徴ある変動が観測されることに気づいた。この変動が地震活動と相関があることがわかり、1995 年から観測を本格化してきた。現在までの観測で経験された様々な現象から、困難とされる地震発生予報の可能性を探る。

・2 月 20 日（木）14:00 ~ 15:30

「東京湾横断道および外郭放水路建設における高水圧下大口径長距離掘進のブレークスルー」

川端僚二（外郭放水路シールド鹿島 JV 工事事務所所長）

東京湾横断道および外郭放水路のトンネル工事において、厳しい自然条件と施工条件での高水圧下大口径長距離掘進を克服するために、セグメントの組立、搬送をはじめ最新のシールド自動化、機械化技術を開発し、これらの技術を駆使した。その結果、シールドトンネル施工の高速化、セグメントの品質向上、コストダウンを達成し、世界に誇る日本のシールド技術を確立した。

・3 月 20 日（木）14:00 ~ 15:30

「埋立地の地質と地球物理」

香村一夫（千葉県水質保全研究所）

・4 月 18 日（金）14:00 ~ 15:30

「タクリマカン沙漠の環境変化と人間生活」

高村弘毅（立正大学地球環境科学部）

・6 月 20 日（金）14:00 ~ 15:30

「風成塵・レスからみた最終間氷期以降のモンスーン変動」

成瀬敏郎（兵庫教育大学）